

水の循環、その一部の私たち

奈良市立一条高等学校附属中学校三年

神戸　すず花

二〇一九年に公開された「アナと雪の女王2」を観たことはありますか。愛すべきキャラクターであるオラフが、嘘か本当か分からないような豆知識を次々に披露していくシーンがあります。その中の一つに「僕たちの身体をつくっている水は、少なくとも四人の人間または動物の中を通ってきた。」というものがあります。一見するとオラフのおもしろさを表しているセリフですが、私はここから水の循環について思いをめぐらせました。水はどこから来て、どこへ行くのか。オラフのセリフをきっかけに、水の循環について改めて考えてみることにしました。

私たちは小学生の理科の時間に、水が姿を変え地球上を循環していく様子を学習しました。雨が地表に降り注ぎ川となり、海へ流れ雲となります。雲は再び雨を降らせます。ではそもそ

も、地球上の水はいつからどのようなにそのサイクルを作ったのでしょうか。地球が誕生したとされる約四十六億年前、誕生したばかりの地球は熱すぎて液体の水は地表に長くどまれませんでした。やがて地球表面の温度が下がり、大気の水蒸気が雲を作り雨が降り注ぎ、原始の海ができたそうです。そして地球の重力が、水蒸気が宇宙空間へ逃げるのを引きとめるため水の総量は昔からほぼ変わっていないのです。ということは、私たちが飲んでいる水も大昔を辿れば、古代の人や恐竜たちが飲んでいたかもしれないということではないでしょうか。私たちの身体をめぐる水は、誰かの命をつないできたものかもしれないのだと考えると、あまりにも壮大で自分が地球という星を構成する一部であるという気持ちすらわいてきます。

水は永い時をかけ地球を循環しています。しかし、人間の活動がこの循環に及ぼした影響を忘れてはなりません。例えば社会で学んだ水俣病は、化学工場が流した排水にふくまれたメチ

ル水銀が魚に蓄積し、その魚を食べたことで発生し、人々の健康に深刻な被害をもたらしました。最近では、洗濯排水によるマイクロプラスチックは最も懸念されていることの一つです。

さらに、近年特に感じる異常気象です。豪雨による土砂災害が起きたり、洪水になったりということがあまりにも日常化されたニュースとなつていくように感じます。世界に目を向ければ干ばつなども起こっており地球温暖化の影響ではないかとされています。温暖化によつて海水温が上昇し、大気中の水蒸気が増えることで、豪雨や台風の強度が増すと指摘されています。また、気温上昇により氷河が溶け、海面上昇が進むことで、地球上の水の分布にも変化が生じます。こうした異常気象は、私たちの生活に直接的な影響を及ぼしてきます。

では、私たちはどのようにして水の循環を守り、未来へつないでいくことができるのでしょうか。探求の研修旅行で訪れた琵琶湖では、かつて水質汚染が深刻でしたが、多くの人の努力

によつて改善されたことを学びました。行政の対策だけでなく、住民や企業が一致団結し、琵琶湖を守るために取り組んだ結果でした。私はこの話を聞いて、環境問題の解決は一人ひとりの意識と行動によつて成し遂げられるのだと実感しました。これまで人間が引き起こした環境問題を振り返り、私たちもできることから実践していく必要があります。水は命を支える大切な資源であり、その循環を守っていくことが地球の健全な未来につながっていくと強く感じました。